



◆ 一月の歳時記 ◆

『90年』

90年のウラ話



知恩院の梵鐘

歓声に包まれた「紅白歌合戦」の幕が閉じたあと、一転、静寂な寺社が画面に映し出され、初詣に向かう人々の静かな足音・・・少し間をおき「グォーン」と響く除夜の鐘。

「ゆく年くる年」は、全国の寺社の迎春風景を生中継する長寿番組ですが、前身は「除夜の鐘」というラジオ番組（昭和2年）だったとか。スタジオで、近隣の寺から借りた鐘を、スタッフが108回、時計を見ながら、ゴンゴン叩いていたとか。（汗）

今は全国中継ですが、たった30分の番組に、台本は一秒単位で用意。また照明の当ても、綿密に計算されているのだとか。テレビマンの心意気が感じられますよね。

さて、登場回数、第一位の寺社は「浅草寺」二位が同点で「延暦寺」「知恩院」「出雲大社」続いて「永平寺」や「東大寺」などもランクイン。極寒の永平寺の雲水（修行僧）が白い息を吐きながら長い階段を裸足で走っていく様は印象的でした。ちなみに日本の三大名鐘は、姿は「平等院」音は「三井寺」勢いは「東大寺」だそうです。

キリスト教の長崎の浦上天堂や、函館のトラピスト修道院からも中継したそうですよ。悲惨な想い出は、バイク愛好家が集まる初日の出スポット、宗谷岬からの中継でした。当日、岬は暴風雨に見舞われ、数十名が避難した先は、なんと公衆トイレ。（泣）すし詰めの状態での酷い中継になったのだとか。

1968年版『京都味覚地図』

先日、ご入居者様からお借りした50年前のグルメ本「京都味覚地図」。これが実に面白かったので、ほんの少しご紹介したいと思います。

中には、ミシュラン常連の『菊の井』や『たん熊』なども掲載され、当時の店構えの写真や値段も載っている上、筆者のコラムも小気味よく洒落ているのです。ちなみに現在五千円ほどする『菊の井』の「時雨めし弁当」は八百円で、当時から評判だったとか。しかし戦後生まれの『京都吉兆』においては、たった9行のみの紹介。「広間といっても20人そこそこがころあいの座敷しかなく・・・」とあっさりしたもの。現在の不動の地位になるまで、先人たちの並々ならぬ努力があったに違いありません。

その反面、栄華をほこっていた老舗店舗が、今は廃業していたりと、この本から栄枯盛衰を見る事ができます。

そんな中、“うぞうすい”の『わらじや』や、“まる鍋（すっぽん）”の『大市』などは、50年はおろか何百年の歴史があり、メニューは1つのみ。現在もそのスタイルを変えることなく、今でも名店として君臨しています。

また「千枚漬け」の紹介文には、今では有名な「大安」ですが、この本では、戦後に生まれた新参者扱い。（汗）「宣伝力にものをいわせてなかなか繁昌している・・・」と皮肉っぽく記しています。



令和元年度 パストラルシニア大学



パストラルシニア大学も開校5年目。今年度も多彩な講師を迎え充実した内容で開催します。過去の講師陣からその熱心な受講姿勢を絶賛されている皆様。今年も皆勤賞目指して頑張りましょう。

- * 毎回フロントにお申込み下さい(席に限りがあります)
- * 当日は、学生証も忘れずに!

【第8回パストラルシニア大学】

「阪神・淡路大震災

その時、記者は・・・！」

日時：1月20日(月) 14:00～

場所：多目的ホール

講師：神戸新聞NIX推進部

三好 正文 氏

阪神淡路大震災の当日、全壊した神戸新聞本社で宿直していた記者が見た現場と、それをいかに社会に伝えたかをお話して頂きます。当日は、おひとりお一人に神戸新聞を提供します。

